パワー溢れる魅せるサーフィン。地元一宮から世界のトップを目指す

東京オリンピックに正式種目として採用されたサーフィン。日本代表の強化指定選手に選ばれている稲葉玲王選手は、日本有数の波乗りエリアである千葉県一宮町で幼少期からサーフィンづけの毎日を送り、世界で戦い続けてきた。中学生からは単身海外留学し、世界の頂点を目指すため、ひたすら努力をしてきた稲葉選手に、サーフィンの魅力について伺いました。

JPSA公認
プロサーファー
稲葉（いなば） 玲王（れお） さん

Photo Dan Warbrick

泳ぎが苦手で泣いていた少年が13歳で史上最年少プロサーファーへ

家からすぐの釣ヶ崎海岸は東京オリンピックの会場にも選ばれましたが、一年を通してサーフィンに適した波が来る全国有数のエリアです。父は、当時から僕をプロサーファーにしたいと思っていたようです。サーフィンを始めたのはちょうど小学1年生の頃。でも僕は泳ぐのが大の苦手。父に連れられて泣きながら始めたというのが正直なところで、とにかく「波が怖い」という強烈な印象だけは残っています（笑）。

朝4時に起きてその5分後には海の中にいるとい

サーフィンを見るのがもっと楽しくなる！
サーフィンの基本ルール

種目：ショートボード（男子／女子）

オリンピックでは4人ずつ競技を行い、うち得点の高い2人が勝ち抜ける「4メンヒート」方式を採用。なお、一つの波に乗れるのは1人だけ。

1ヒート（試合）の制限時間は波の状態でも異なるが20～25分。選手はその制限時間内に10本前後のライディングを行い、うち点数の高かった2本の合計点で競う。得点は波を乗りこなすライディングテクニック（技の種類や難易度、オリジナリティ、スピード、ダイナミックさなど）を、5～7人の審判により採点される。稲葉選手の持ち味である力強い波しぶきも得点のポイントとなる。

Photo Dan Warbrick

う毎日でしたが、同世代の友達がいたこともあって、だんだんサーフィンに夢中になっていきました。プロを意識したのは大会にも出るようになった小学2、3年の頃から。父から「史上最年少プロに」というのは言われていましたし、周りを見ればプロの人たちばかりだったので、自然な成り行きでした。結果、13歳でプロ入りできましたが、今思えばとても恵まれた環境にいたのだと実感しています。

◆波をよみ、相手との駆け引きに勝つ。頭脳戦もサーフィンの見どころの一つ

サーフィンの魅力はなんといっても自然相手であること。二度と同じ波は来ないので難しさもありますが、だからこそ格上の選手に勝てるチャンスもある。潮の流れや波の状態、地形による波の崩れ方を見極めるなど、それらを総合的に分析してライディング＊します。そして、そのチャンスが活かせた時はすごく嬉しいし、とても楽しいです。

また、サーフィンはフィギュアスケートのように1人で行う競技だと思われている方が多いのですが、そうではなく、数人が同時に海に入り波乗りを競い合う競技です。一つの波に乗れるのは1人だけなので、位置取りやどの波にどのタイミングで乗るかなど、選手同士の駆け引きも面白いと思います。時には、相手選手が得点しにくいように、巧（たく）みに追いかけるように波に乗る選手もいるんですよ。相手にプレッシャーをかけるようなテクニックも勝つためには必要ということです。波しぶきの大きさや派手な技などの見栄えはもちろんですが、そういった「人相手の頭脳戦」もやる側見る側双方に、楽しめると思います。

＊波に乗ること

◆幼い頃から目指すのは世界のトップ。オリンピックは後からついてくる

ちょうど今は、サーフィンの世界選手権、ワールド・サーフ・リーグ（WSL）チャンピオンシップ・ツアーの真っ只中。ジュニアの頃から切磋琢磨してきた各国のサーフィン仲間たちと世界のトップを目指して戦っています。去年の結果は70位で、今季は現時点（2019年5月）で5位。子どもの頃からの夢が叶うかどうか、今が頑張りどきです。僕の持ち味は、大柄な外国人選手にも負けないパワー。技術的には僕も世界で戦えるレベルにあるし、それだけのことをやってきたという自負もあります。今後は、作戦力や瞬時の判断力などをより強化していきたいです。そして、今までコーチと呼べる人はいませんでしたが、1年ほど前からついてくれている日本人コーチの存在も心強いです。

僕にとって東京オリンピックは、そのツアーの延長線上にあるもの。目の前の目標に向かって一つひとつ結果を残せば、自ずとその先についてくるものだと確信しています。

読者プレゼント

カレンダー＆サイン色紙…3名様
キーケース……2名様
RIP CURL キャップ ……1名様

応募方法は、医師会インフォメーションをご覧ください。

■1997年3月24日生／出身地：千葉県／小学生の頃から練習の傍ら、短期でサーフィン留学を始め、13歳でプロデビューを果たす。現在は一宮を拠点に世界を転戦中。世界ランキング第5位（2019年5月時点）